

令和4年5月31日

TEL・FAX 0954-66-3113

発行責任者 江口 常雄

き ず な

す 住 み よ い げん 元 き な 緑 の 郷 大 草 野

・・・大草野小全校児童で **ウォークラリー** (5月2日:月) ・・・



「ゴールデンウィーク」と言うのなら、「なぜ今日も休みじゃないの?」と思ってしまう、5月2日の月曜日、気持ちよくスカッ!と晴れ渡った青空の下で大草野小学校全校児童によるウォークラリーが開催されました。

1年生から6年生までが6班の縦割り班に分かれ、「大草野お宝スゴロクマップ」を手にしながら、3か所それぞれに決められたミッション(使命・任務)を果たすようにゲームが用意されていました。それは、蛍橋のもとでは小石を何段積んだかを競い、丹生神社では13文字の言葉を正しく並

べ替えて、その時間の速さを競い、防災広場ではザルの中への玉を入れ数の多さを競って、順位を決めるゲームでした。

文字を並べるゲームは、勘のいい子ども達はたいへん上手で、すぐにクリアできていました。正解の言葉は、「みらいへかがやけほたるっこ」でした。ザルへの玉入れは、投げる位置が3段階に分かれていて、一番投げる距離が遠い高学年(5・6年生)はけっこう苦戦しているようでした。低学年の活躍が勝敗を分けてい



るような感じでした。3位までの成績は、次のとおりです。

優勝:1班、2位:3班、3位、5班

さっそく、作成したスゴロクを活用しての行事を実行していただいた大草野小学校には厚くお礼を申し上げたいと思います。それと併せて、スゴロクに載っているそれぞれの場所がもっと大草野校区のみなさんはじめ、多くの方に知っていただけるように環境整備をしていけたらと思っています。ご協力をお願いします。



《《第1回 専門部会開催、部会の代表者が決まりました！》》

令和4年度、第1回の専門部会が開催されて、下記の表のとおり部会長、副部会長が決まりました。

部 会 名	部 会 長 名	副 部 会 長 名	
総務・広報部会	村島 秀典 (三坂)	田中 憲司 (辺田)	香田美代子 (式浪)
公民館活動部会	福田 彰 (万才)	一ノ瀬 亮 (角ノ谷)	瀧野 博己 (辺田)
青少年育成部会	村島 優介 (三坂)	西田 幸司 (五代)	山崎 直也 (角ノ谷)
健康福祉部会	川原 高文 (五代)	田口 一音 (南下)	奥川佳奈子 (式浪)
環境整備部会	馬場 弘和 (南下)	田中 孝 (万才)	西野万亀子 (式浪)
地域づくり部会	香田 正人 (式浪)	西野 研一 (式浪)	前田 幸 (南下)



各部会の執行体制が決まり、4年度の事業の実施に向けて動き始めます。コミュニティ活動は、子ども達が大人になったときに、地域で少しでも快適に暮らせるようにするためにあるのだと思います。つまり、より良き次世代づくりに貢献することではないでしょうか。一人の力では思うようにならなくても、同じ気持ちを持つ人たちが、少しずつ力を合わせ、歩幅は小さくても前進していけたらと信じます。

2年間以上、思うように行事ができませんでしたが、ウィズコロナの体制を採りながら、実施が可能なメニューをやっています。いつまでも何もできない、しない、ではコロナに負

けっぱなしで悔しいですから、ここで攻勢に転換できたらと思います。ご協力をお願いします！

・今年初めて学校農園に「オクラ」を植えました！（5月12日～）

これまで、ひまわりを植えていたスペースに、オクラを植えてみました。オクラも白い花はキレイで長期間楽しめますし、食べてもオクラのネバナ効果は、暑い夏を乗り切るのに最適です。夏休み中の収穫は少し課題ですが、学校で工夫していただき、是非、活用をお願いしたいと思います。

・学校グラウンドの除草作業

（5月21日：土）大草野小学校の体育大会（29日）を控えた、22日（日）のPTA除草作業の負担軽減になればと思い、コミュニティが1日早く除草作業を行いました。



〓編集後記〓
愚者の自覚

西念寺の前住職がお浄土へ旅立たれ、四七日忌のとき、住職が、最近では、法然上人が言われた愚者の自覚という言葉を考えるようになった。」というお話をされ、私はとても納得をしながら聞き入っていました。自分はまだまだ至らないという思いで過こしていれば、この世の色々な争い事は起こらなくてすむのだ、という話なのだが、まさしくそのとおりだと思う。

自分のことで恐縮ですが、佐賀新聞に初めて投稿したときの題をわがことほむる大馬鹿もん」として、小学生のころから母親に言われていた戒めの言葉を思い出して書いた。試験や運動の結果が良かった時に、家に帰り自慢げに報告すると、母親は、母ちゃんにはよかばつてん、ほかん人にはあんまり自慢話をするな、好かれんぞ！」と時々注意されていたのだ。今の年になって思うのは、世の中の良く無い出来事の殆どが、誰かの自惚れや、思い上がりから端を発しているのではないかとこのことだ。誰もが、自分はまだまだ至らないという謙虚さがあれば、世の中はもっと穏やかならうなと思いを巡らす。遠い異国の地で起こっている、信じられないような侵攻も、身勝手な思い上がりからではないだろうか。何かに優越感を持ち、それにより「自惚れ」思い上がる者は、行きつくところ結局、賢者ではなく、愚者だということか？